

市民意向に沿った新図書館のあり方について

1 目指す新図書館のあり方

新図書館は、図書資料の収集と貸し出しという従来の目的に加え、駅前の立地から、まちづくりの一環として、市民意向を反映したにぎわいの創出に寄与する機能を配置します。

子どもから若者、子育て世代、高齢者まで様々な年代が、気軽に知識や情報を得られるとともに、学生、会社帰りの社会人などの自主学習やビジネス利用、多世代の居場所として、ゆったりとくつろげる知と憩いの拠点施設を目指します。

2 基本方針

目指す新図書館のあり方のもと、具体的には以下の基本方針を設定します。

基本方針 1 とともに学び合い、知を育む図書館

図書館は、本をはじめとした多くの情報が集まる知の拠点です。これらの知を活用し、本を読んだり資料から情報を得て学ぶことは、有効な学習手段のひとつです。さらに、新図書館では、市民や市民ボランティアなどによる主体的な活動を支援し、講座や講習会への参画によって教え、教わることや意見交換を通じて、学びを深め、知を育むことができる図書館を目指します。

基本方針 2 多世代にやさしい図書館

図書館は、多くの人々が利用する身近な公共施設であるとともに、生涯学習のための重要な施設です。しかし、これまでの図書館は、子どもの声や足音を気にして、立ち寄りづらいと感じてしまう子育て世代の方たちもいたようです。そのため、新図書館は、世代によらず、すべての人が気軽に立ち寄り、気兼ねなく利用できる図書館を目指します。

基本方針 3 くつろぎと憩いの図書館

新図書館は、朝倉駅周辺に立地し、交通利便性が向上することから、学生の学習利用や会社帰りの社会人の利用の増加が予想され、長時間滞在できる機能へのニーズが高まると考えられます。また、市民ニーズにおいても、ゆったりとくつろいで過ごせる雰囲気のある図書館が求められています。これらのことから、新図書館は、家にいるようにゆったりとくつろいで過ごすことのできる、滞在型の図書館を目指します。

3 主な市民意向への対応

(1) スペースの要望

① 「屋内でゆっくりくつろいで閲覧（選書）できるスペース」

→ 開架・閲覧席を拡張します。

② 「飲食できるスペース」、「飲食ができる」とよい」

→ 飲食コーナーとしてラウンジを新設します。

③「自習・仕事ができるスペース（学習室）」

→学習室機能を拡張します。

(2) サービス、施設機能の要望

①「持ち込んだパソコンやスマートフォン等がインターネットに接続可能になるサービス」

→無料 Wi-Fi やコンセントの整備を検討します。

②「ベビーカーの子連れでも歓迎される雰囲気。託児、授乳、おむつ替えスペース。」

→・児童書スペースは一般書スペースから分離した配置とし（別階など）、子どもの声や足音などの騒音が他のエリアに響きにくい床仕上げ材やスペースの配置に配慮します。

- ・ベビーチェア、ベビーベッド、授乳室を配置します。
- ・子育て、児童コーナー（児童書架・閲覧室）を充実します。
- ・新図書館内に子育て支援施設（託児・遊び場）の導入を予定し、利用者が相互利用しやすいよう、新図書館の児童書コーナーと近接して配置します。

③「本の返却ポストの充実」

→自動貸出機の設置台数の充実、自動返却ポスト、予約本の自動受け取りを検討します。

④誰でも利用しやすい開かれた雰囲気

→・ユニバーサルデザインによる施設整備を行うとともに、視覚障がい者、高齢者のため、対面朗読、録音、点訳できるよう防音仕様の部屋を設置します（対面朗読室の設置）。

- ・書架の高さを低くし（5段程度）、見通しのよい空間とします。
- ・書架間はゆとりのある間隔とし、接架している人の後ろをベビーカー、車いすでも通行できるよう書架と書架との通路幅員を1.3m以上（現行1.1m）とします。

4 施設規模等

(1) 施設規模

市の公共施設等総合管理計画では、H28年度から30年間で市が保有する公共建築物の延床面積を20%以上縮減することを目標に設定していることから、新図書館の延床面積は、現在の図書館の延床面積（3,229㎡）以下とし、必要とする機能に要する施設面積を考慮し、概ね3,000㎡程度とします。

(2) 蔵書計画

現行図書館と同一の30万冊と設定します。

なお、開架書架と閉架書架の割合は、ゆったりしたくつろぎ空間の創出のため、資料収集力の高い閉架書架の割合を高めるものとする。（現行の図書館の開架書架と閉架書架の割合は、5：5）

(3) 他施設との連携

朝倉駅周辺整備基本構想に位置づけされる新図書館周辺の商業施設等とは、にぎわい創出の観点から連携のあり方を検討していきます。